

電腦援助

Ver.6.0

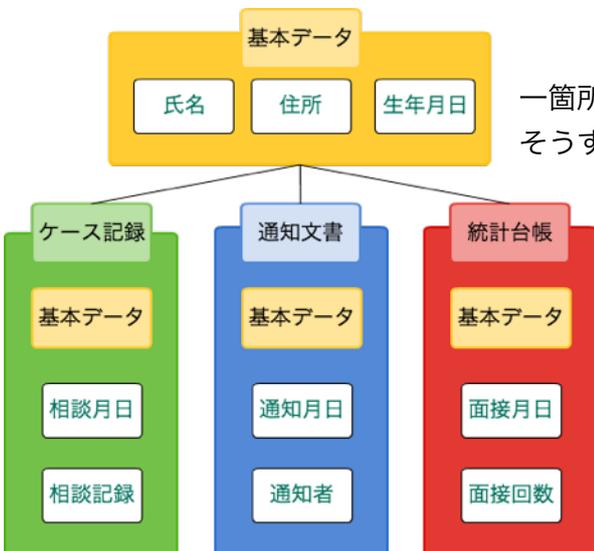
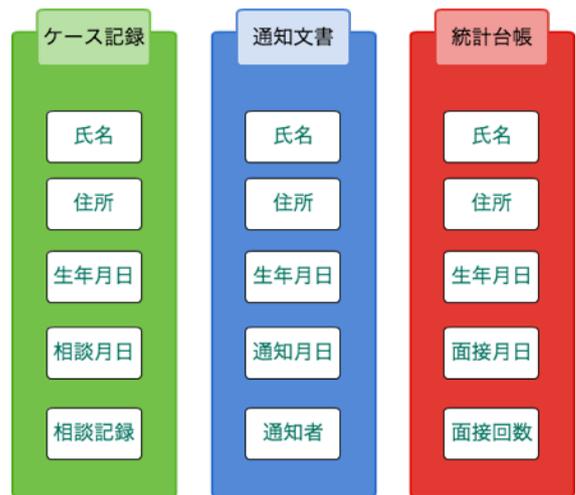
浅田 英輔

CUT DOWN TASKS !

この電腦援助は、日々起こる「なんでこんなことも知らないの!?!」「なんでこんな手間のかかる方法にするんだよ!」という電腦がらみの「怒り」からできています。(もちろん、相手に直接怒りをそのままぶついたりはしません。たぶん。)

私は日々「この仕事をもう少し楽にできる方法はないか」「この面倒な入力作業を簡単にできないか」「この文書は毎回同じものを作るのはいやだな」とか考えています。そのため、手間のかかるルーチン作業を毎回手作業でしているのを見たりすると、「無駄!!」と憤るわけです。

例えば、児童相談所では相談に来た方の「ケースファイル」が作られます。ケースファイルの中には、基本情報があったり、面接記録があったり、いろいろな通知が入っていたりします。また、様々な台帳もあります。何を言いたいかというと、「相談者氏名」「相談者住所」などを、何度も何度も書く必要があるわけです。ここの記録に、こっこの台帳に、通知を出すときはそこにも、という具合です。書き写す手間もあるし、間違える可能性もある。データベース的にも、同じ情報があちこちにあるのは美しくない。「氏名」「住所」「生年月日」を3回書く必要があるのです。修正する場合は3箇所それぞれ直さなければなりません。



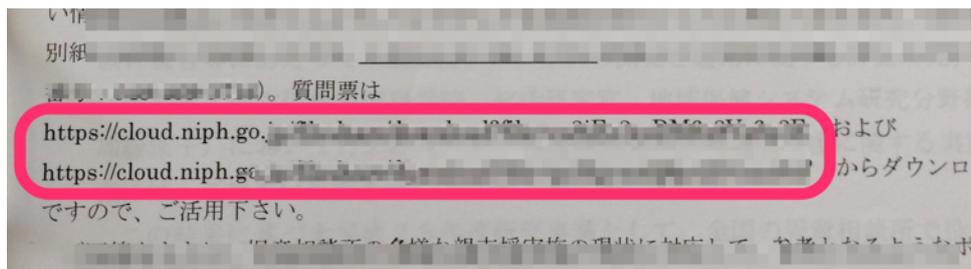
データベース的考え方からすると、ひとつの情報は一箇所にあるべきで、必要なときは参照すればいいのです。そうすると、マスターデータを修正すると、他の部分も連動するからです。もちろん、すべて手書きの場合は無理ですが、今どきはどこの部署でもパソコンでこういったものを作っているかと思います。

←これだと、「氏名」「住所」「生年月日」は一箇所直せばいいだけになります。

さらに、ボタンをポンと押せばこっちのWordファイルにもExcelファイルにも転記できるような仕組みがあるとよりよいです。いい機能を一回作ると、その後もずっと「ボタンポン」で済むようになるわけです。もちろん、その仕組みを作るには「プログラム」の知識が必要だったりしますので、簡単ではありません。偉そうに言っていますが、私もそこまでできません。

でも、そういうことができれば楽なのになーと日々考えています。

そんな私の目に入ったのが、この文書。
研究機関からきたアンケート記入のお願いです。



これは紙の文書で来ています。もちろん、紙のアンケート記入用紙も同封されています。その文書の一部がこの画像です。モザイクが多くてわかりにくいのですが、「記入用紙は、ここからダウンロードもできます」と書いています。[https://]から始まって、「および」の前まで69の英数記号の文字列！！しかも2つも！！「ここからダウンロードできます」って！！69文字の無機質な英数字を手で打つなんて！！直接打つ気には到底なれません。職場で「ばかじゃないの!？」と口に出してしまいました。アンケートに答えることに加えて、こんな手間までかけさせるとは！他にやり方を知らないというのは大きな問題だと思います。「知らないから仕方ない」ではないのです。

ただ、この「ばかじゃないの!？」という気持ちは大事で、これを手打ちせずになんとかしてやろう、という気を起こさせるのです。また、こんな長いURLを紙の文書で相手に手間をかけさせないためにはどうすればいいのか、と考えさせるのです。

○ 問題 ○

アンケートのために、多くの回答者に質問紙をWordファイルで手に入れてもらうためにはどういう方法があるか。

あなたならどうしますか？

当然、回答者の手間が少なければ少ないほど、回答率は上がると考えられますよね。

※紙で送って紙で回答をもらう方法

メリット… 今の時代に、紙でやりとりすることのメリットってなんですかね……。

デメリット… 送付料金がかかる。回答を封書でもらう場合、返信料もかかる。

アンケート結果をまとめるときに、改めてワープロで打つ必要がある。

回答側も、手書きで書くのは億劫になっていることがある。

印刷、封筒詰めの手間もかかる。出しに行かなければならない。

○答え1

メールで送る。

これが「ファイナルアンサー」かと思います。上のアンケートは、おそらく全国の児童相談所あてのものです。今どき、公的機関であれば何らかのメールアドレスを公開しているのではないのでしょうか。・・・と思ったら、弘前児童相談所のメールアドレスはすぐに見つかりませんでした（公的な研究機関であれば、管轄である厚生労働省にお願いすれば、連絡先一覧をもらえるかとは思いますが）。メールアドレスさえあれば郵便代もかからないし、返信をまとめるのも楽になります。メールアドレスがわからない場合は他の方法をとります。

※この方法に必要なもの…送り先のメールアドレス一覧

メリット…メールアドレスがあれば簡単にできる。

返信もファイルでなされるので、集計が楽。

郵送料がかからない。

デメリット…特になし。



○答え2

自分のホームページにファイルを置いて、そこからダウンロードしてもらうようにする。

これは私もよく使う方法です。URLを手打ちするよりも、「弘前児童相談所で検索して、その○○のページに移動してダウンロードしてください」としたほうが、受け取る側は簡単です。誰でもみられるようにしたくないのであれば、パスワードを設定すればいいです。もちろん、セキュリティは万全ではないので、個人情報や機密情報等はやめたほうがいいと思います。紙の文書にはパスワードも載せるといいですね。

ただ、機関のホームページは更新にうるさい場合もあります。そこがスムーズに行くかどうかでこの方法を選ぶかどうかが変わると思います。

※この方法に必要なもの…自分か「お願い出来る担当者」が中身を更新できるホームページ

多少の、ホームページを更新する知識

メリット…メールに添付できない大きいサイズのファイルでも対応できる。

デメリット…「ホームページでファイルをダウンロードする」ことの敷居が高い場合がある。

メールよりもセキュリティが下がる。



DOWNLORD HERE !

※ クリックしてもなにもないです。

○答え3

CD-Rを送付する。

ファイルを送ってしまう方法ですね。ただ、あまりオススメはしません。そのときしか使わないCD-Rというものは、ことのほか邪魔なものです。必要な容量（送りたいものに対してCD-Rの容量が大きすぎる）や重さを考えると、コストパフォーマンスもよくありません。

CD-Rを買ってきて、それぞれにデータをコピーして、ケースに入れて、緩衝材を入れて、封筒に入れて……。めんどくさいですね！！USBメモリという手もありますが、さらにコストパフォーマンスは低下しますね。研修参加者にいろいろなファイルを渡すという用途にはよいかもしれませんが、アンケートには向きません。

※この方法に必要なもの…送付先分のCD-R、多めの送料

メリット…確実に回答者に届く。

大きいサイズのファイルでも負担がかからない。

ネット環境がない回答者でもみることができる。

デメリット…コストがかかる。手間がかかる。



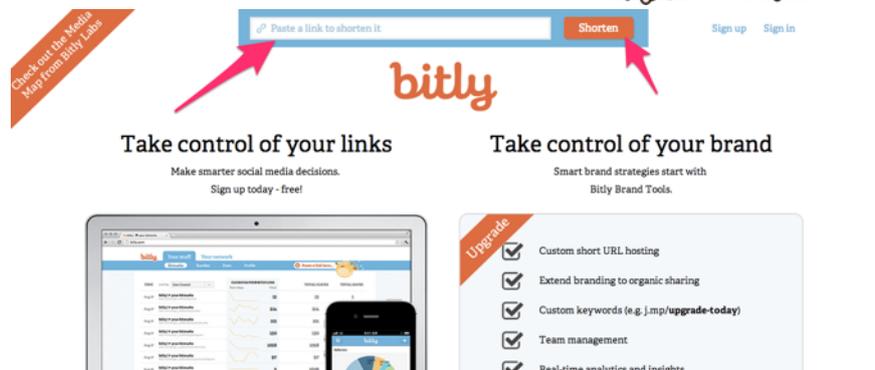
○答え4

短縮URLを使う。

こういうWebサービスがあります。

<https://bitly.com/>

（パソコンやタブレットでご覧の方は、URLクリックでサイトに行けます）



どういう仕組みなのかわかりませんが、URLを短くしてくれるのです。

上の窓にURLをいれて、右側の「shorten」ボタンを押すだけ。

例えば、弘前児童相談所のホームページアドレスはこれですが、

「<http://www.pref.aomori.lg.jp/life/family/hiro-jiso.html>」

bitlyのサービスを使うと「<http://bit.ly/1eTMRy5>」ここまで短くなります。

64字のものも、これと同じ長さになります。これくらいだと手打ちしてもいいか、と思えます。紙にURLを書いた上で、横に「こちらからもアクセスできます」と短縮URLを載せるのはいいかもしれません。

※この方法に必要なもの…ファイルの置き場所（ホームページなど）

メリット…簡単にできる。コストがかからない。

デメリット…セキュリティの心配。短いながらも手打ちが必要。

○答え5

QRコードにする。

こういうWebサービスもあります。<http://www.cman.jp/QRcode/>
最近よくみる二次元バーコード=QRコードを作ってくれるのです。

The screenshot shows the 'QRコード[二次元バーコード]作成【無料】' page. A red box highlights the input field containing the URL 'http://www.pref.aomori.lg.jp/life/family/hiro-jiso.html'. Below the input field are various settings for the QR code, such as 'バージョン(セル数)', '作成する大きさ', '誤り訂正レベル', 'QRコードの色', and '作成ファイル形式'. A '入力クリア' button is also visible.

いろいろ細かな設定が可能ですが、「QRコードを作成する文字列」にURLを入れて、下にあるこのボタンを押せば出来上がりです。



はい、すぐできましたね。

これを読み込んでみてください。弘前児童相談所のホームページが表示されますよね。

これだと読み込む手間はかかりませんね。もちろん、これを読み取る機器が必要になります。

職場にスマホを持っている人がゼロということはあまりないでしょうが、自分のスマホを使うことに抵抗がある人もいるかもしれません。



QRコードを読み取るのに、わたしはiPhoneで「Qrafer Pro」というアプリを使っています。

(300円の有料アプリですが、セールの際に無料で手に入れた気がします)

Androidアプリでは、「QRコードリーダー EQS」という無料アプリがありました。

iPhoneでもAndroidでも、無料アプリがいくつかあるので探してみるといいですね。(使い方、使ったときの問題についてはご自分でお調べください。)

この方法も面白いのですが、相手に一手間かけてしまうのであまりオススメしません。ポスターの片隅に「詳細はWebで！」とQRコードをつけるのはいいと思います。

※この方法に必要なもの…相手方がQRコードを読み取れるという情報

メリット…QRコードの読み方さえ知っていれば簡単にできる。

デメリット…スマートフォン～パソコンとファイルを動かす手間はある。

さて、今回は「多数の相手方にWordファイルを届ける方法」を考えてみました。実際はこれに加えて「ファイル容量が大きい場合」「ファイルの数が多い場合」「相手によって送るファイルが違う場合」などいろいろなパターンが起こりますね。そもそも、アンケートであれば、Webページにアクセスするとそこでポチポチっと押してアンケートに答えられる、というほうが回答者も楽かもしれません。もちろん、集計も楽になりますし、記入漏れを防ぐこともできるようになります。

いろいろなやり方を知っておくと、困った時になんとでも対処できるようになります。知らないとい69文字も相手に打たせることになります。今回の場合は紙に書いて返答すればいいのですが、URLを直接打たなければアンケートに答えられない、というのであれば誰も答えないと思います。「できるだけたくさんの人にアンケートに答えてもらいたい」という目的があるのであれば、答える側が取り組みやすい方法をとるべきです。

「Nクリックを1クリックにすると商売になる。1クリックを0クリックにすると革命になる。」

という言葉があります。インターネットの世界でも、人は「クリックすること」さえ面倒なようです。クリックはできるだけ少ないほうがいい。サービス提供側は、できるだけクリック数を減らすよう工夫しています。なんでもかんでも簡単にすることがよいこととは思いませんが、面倒なことを減らす努力、日常の仕事を簡便にする努力は日々続けたいと思っております。こちらが発信したものを相手はどう受け止めるのか、受け止める方法はなにか、こちらが望む処理をしてもらうにはどう提示すればよいのか、といったことはまさに対人援助につながる考え方だと思います。それは結果としてクライアント、相談者に有効な援助ができることにもなりますね。

「時間をかければいいものができる」というのは半分本当ですが、半分ウソです。時間をかけるべきところ、短時間でやるべきところ、かけたほうがよいところ、かけないほうがよいところを分けることができるのが援助だと思います。それを判断するのが「アセスメント」なのだと思います。

なーんて、無理やり対人援助につなげた気がしなくもないですが！
でも本当にそう思ってますよ！

是非新しい方法にもチャレンジしてみてください。
たまには失敗するかも！レッツトライ！



疑問・感想は dennouenzyo@gmail.com まで!